

平成 30 年度  
第 1 回まちづくり委員会会議録要旨

日 時 : 平成 30 年 4 月 27 日 (金) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分  
場 所 : 香美市役所 3 階会議室 301・302  
出席者 : まちづくり委員 17 名  
          市長、企画財政課長、企画調整班 2 名  
会 長 : 公文久郎委員

【協議内容】

1. 市長へ提言書提出

会長から市長に提言書を手渡す。

2. 各委員長から提言内容の説明

<建設・環境小委員会>

- ・香美市の移住定住に関する取り組みや NPO 法人いなかみの活動についてもっと市民に知ってもらい、市民が協力的な姿勢になって初めて移住定住の成果が見えてくるので、いろいろなスタンスや角度から PR をしてほしい。
- ・市街化調整区域について、南国市などでは開発許可の規制緩和が行われており、それに追随して香美市も局所的でかまわないので規制緩和を検討すべきではないか。

<健康福祉・教育小委員会>

- ・人口減少問題対策として子育てしやすく働きやすい、安心して暮らせる香美市をめざした取り組みが必要不可欠ではないかと議論を進めた。
- ・地域のまちづくりに貢献する方、特に福祉・教育に関わる方は無償で市に貢献する方が非常に多く、喜びを持って地域にかかわり続けるために「香美まちづくりパスポート」を発行して、ポイントが貯まると割引などの特典が得られるようにしてはどうか。

<産業・まちづくり小委員会>

- ・若者の代表である若い委員の意見を形にしていくということで、中核になる施設がほしい、地域の住民とのふれあいを積極的に行いたいなどの意見を集約し、道の駅を地域的に香美市の中心にある工科大に隣接してはどうか。

<市長の見解や意見>

- ・アンパンマンミュージアム周辺の活性化、龍河洞周辺の改修、鍛冶屋の学校構想のスタート、林業大学校の開校、山田高校を東の拠点にする構想など非常に大事な年度の中で 11 項目の提言をいただき、なるほどという思いである。

【提言1】【提言2】

- ・移住の問題や移住者の声を広報などに限らず、いろいろな会議で発言してもらったらと考えている。

【提言3】

- ・鍛冶屋の学校の場所についても市街化調整区域も含めて計画を立てなければならない。
- ・調整区域で市街化区域に入れてはどうかという地域もあり、南国市に続いて準備をしていかなくてはならない。

【提言4】【提言5】

- ・コミュニティスクールの議員参加については、議員の皆さんがまちづくりに大変大きな役割を果たしているのので、このような声があることは伝えてもらいたい。
- ・「人材バンク」はぜひ教育委員会に検討してもらいたい。

【提言6】

- ・児童クラブの制度については、国にも見直すように市長会の要望書に挙げたい。

【提言7】

- ・ファミリーサポートセンターの安全面については、教育委員会で十分検討してもらおう。

【提言8】

- ・子育てを応援しているまちだとわかりやすく伝えるのは非常に大事であり、授乳場所なども含めて行政が企業とどのようにタイアップしていけるかを考えて、子育てに配慮する優しいまちづくりをしていくことが大事である。

【提言9】

- ・パスポートに関心がある市民の方は少なからずいるので、皆の声を聞きながらやっていくとおもしろい取り組みになるかもしれない。

【提言10】

- ・道の駅や場所についてはいろいろな意見がこれまでも出ており、市民の皆さんの思いがそれぞれあるので、議論の中で揉みあげてもらったらありがたい。
- ・安心・安全の面、広域的な防災・減災の立場、災害対策としての道の駅になる可能性があり、これからの大きなテーマになる。

### 3.市長と意見交換

○工科大学をもっと市の中心の存在として活用していくべきで、市役所に工科大係を作って強化してもらいたい。

→まだまだ市民の皆さんが工科大を使い、連携するまでになっていないが、日常生活の中で工科大に問題提起して、一緒に考えてもらい、つながっていくことが大事である。

○児童クラブをできるだけ統合して、安定した運営を行う中で、子ども達が安心安全で、教育も含めた取り組みが行われるように「児童クラブを考える会」を組織しており、企業の営利目的のための運営とならないように、教育委員会は児童クラブのプロポーザルを行うかどうかの判断を早急に行い、市民に伝えてほしい。

→児童クラブの課題は分かれている運営組織を1つにすること、指導員の条件を統一すること、未整備の児童クラブを学校内に整備することである。プロポーザルについては主導的に教育委員会が動き、運営組織がまとまっていくことが大事である。

○ジビエを香美市の特産として、市を挙げて取り組んではどうか。

→ジビエは仕留めてから1時間以内に処理しなければいけないが、香美市は行くだけで1、2時間かかり、供給がうまくできるか、供給を受ける体制を保てられるかが問題である。

○工科大の先生は有為な人材なので、香美市として大学の近くに官舎的なものを建てて、安い家賃で住んでもらい、地域とも交流して、大学と共に先生も取り込んではどうか。

→それぞれの考え方があり、全ての先生が都会派ばかりではなく、ここで教鞭を取っていたら学生や地域に対する思いも生まれてくるが、選択の自由もあるのでどうなのか。

○新図書館など、子どもからお年寄りまでがいつでも集まれる地域の拠点があれば良い。

→新図書館もそういう視点から考えることが大事で、皆の声が活かされた施設になれば皆が集える場所になるので、情報の拠点となるよう進めていかなければならない。

施設だけでなく商店街などでも、高齢者や子育て中の母親や子ども達が孤立せずに過ごせる場所作りが大事ではないか。

○山田地区は移住がかなり進んでおり、香北地区も歯止めはある程度かかる状況だが、物部地区は移住が難しく、地域格差が大きく現れているが、旧3町村が同じような生活ができる環境を整えていくことを考えているか。

→どこにいても情報がきちんと取れる社会であるべきだが、光回線の情報のインフラの整備がまだできていないので、国に対して要望すべき課題である。

香美市で2つ目の集落活動センターが平山地区に設立され、住民がお互いに力を合わせられる環境を作ることが大事で、やっと国も応援してくれる状況になってきたので、どんな小さなところでも可能性を捨てないで取り組んでいきたい。

○香北・物部地区の小さな座談会や集まりなどへもぜひ市長が顔を出して、地域の住民との交流を進めていただきたい。

→地域の皆さんの事情などをしっかり聞かせてもらうことが何より大事なので、今回いただいた提言も胸に秘めながら皆さんの声をさらに聞いていきたい。

#### 4.その他

次回からの協議内容は、事務局提案の「香美市協働のまちづくり条例」について取り組む予定。